

東京農業大学稲花小学校

学校だより【12月8日】第33号



毎日を大切に

師走に入り、一段と寒くなりました。大人にとっては何かと忙しい毎日ですが、本校の子どもたちにとっては、様々な発見のある毎日であることに変わりはありません。「寒いね」「天気予報で12℃だって言っていました」「だから、マフラーしてきたの」と、天気予報で情報を得ることを学んだ子どもたちがいます。「小田急バスと東急バスの車体の違い、知っている？」と得意分野で挑戦してくる子どももいます。小学校の教職員の苗字、「全部、漢字でも読める」と玄関口で読み上げてくれる子どもがいれば、「読めるよ」とほかの子どもたちも集まってきます。寒くなってきたせいか、生き物に関わる話題がやや少なくなった一方で、子どもたちの興味の範囲が広がっているのを感じます。保護者の皆さまにも、毎日の生活の中で、子どもたちの知的好奇心を適切に刺激し、また、それに応えていただきますようお願いいたします。家庭でも学校でも、子どもたちの毎日を大切にしてお過ごししていきたいものです。



給食の専門家が訪問

12月5日(木)、[東京農業大学栄養科学科フードマネジメント研究室](#)の鈴野弘子教授、君羅 満教授、池田昌代准教授、そして秋山聡子助教が、給食の視察に来校されました。フードマネジメント研究室では、給食の経営管理とオペレーション、効率的な給食システムの構築など、給食に関わる研究を多く行っています。栄養教諭の案内で、大学の先生方には、給食室での調理の様子から、子どもたちによる配膳、食事、下膳の様子までをご覧いただき、試食もしていただきました。本校での工夫された献立や、一年生にもかかわらず子どもたちがきちんと配膳をしている様子などを褒めていただくとともに、今後のより良い給食のために有益なご助言を多数いただきました。

経堂農大通りを探訪

12月5日(木)の稲花タイムで本校の子どもたちは、[経堂農大通り商店街](#)を探訪しました。通学路の一つでもあり、また、東京農大関係者でにぎわう商店街です。先生方に引率され、観察ボードを下げた子どもたち、いろいろな発見があったようです。飲食店が多くなり、昔ながらの商店街というイメージはありませんが、果物屋さん、お米屋さん、パン屋さんなどがあり、また、スーパーマーケット、銀行や図書館などについては、これから勉強していくことになります。なお、この機会に小田急線経堂駅、経堂駅前交番(北沢警察署)、また、経堂農大通り商店街振興組合理事長川村様にもご挨拶に伺い、子どもたちに対する日ごろの見守りのご指導に感謝しました。

難しくてもチャレンジ

本校の教育理念は「冒険心の育成」です。未知なる新しい世界に挑む気骨と主体性を持ち、本気になって取り組み、科学的・実践的に学ぶ人間を育てようとするものです。子どもたちにはしかし、寒いから嫌、苦手だから嫌、疲れたから嫌……と、様々な“嫌！”があります。子どもたちの年齢を考えると、それも自然なことといえるでしょう。その中で、寒いけれど我慢する、苦手だけれど少しやってみる、疲れたけれどあと少し、あるいは、次は疲れずに早く寝よう、という気持ちや姿勢を、子どもたちから引き出していくのが教育です。

お友だちの良いところから学んだり、お友だちに励まされたりすることもあるでしょう。お友だちの失敗から学ぶこともあるかもしれません。うまくできなくて、一時的に“嫌！”が強化されてしまう場合もあるでしょう。しかし、「未知なる新しい世界に挑む気骨と主体性」は、子どもたちの幸せな未来のために求められる大切な特性です。これからも、それぞれのご家庭と力を合わせて、子どもたちの「冒険心の育成」に努めていきたいと願っています。

2020年度入試

2020年度入試および編入学試験も無事に終わり、今後は入学者説明会が行われます。また、年明けの1月11日(土)には、2021年度以降の入試を視野に、年中、年少者向けの学校説明会が始まります。農大稲花小学校の「教育理念」に賛同される保護者とお子さまに、本校受験をお考えいただく機会となります。

なお、11月30日(土)の朝日新聞には、「私立小 付属・進学校も人気」というタイトルで、本学の入試の様子、今年の志願者数が前期・後期で合計927人であったこと、昨年より受験者が63人増え人気が続いていることなどほか、校長のコメントも掲載されました。

校長 夏秋 啓子